

## 第 85 回講演大会講演募集案内

申込（原稿同時提出）締切り 昭和48年1月22日（月）

本会は第85回講演大会を昭和48年4月5日（木）、6日（金）、7日（土）の3日間東京工業大学（東京目黒区大岡山）において開催することになりました。下記要領により講演募集をいたしますので、奮つてご応募下さるようご案内いたします。

講演希望者は昭和48年1月22日（月）までに申込用紙と講演概要原稿を提出して下さい。

### 講演ならびに申込要領

- 講演内容** 鉄鋼の学術、技術に直接関連あるオリジナルな発表  
(設備技術、I Eなどに関する発表を歓迎いたします)
- 講演時間** 1 講演につき講演15分、討論5分
- 講演前刷原稿**
  - 1) 原稿は目的、成果、結論が理解しやすいよう簡潔にお書き下さい。
  - 2) 設備技術に関する原稿には計画にあつての基本方針、特色、成果等を必ず盛り込んで下さい。
  - 3) 商品名等は原則としてご遠慮願います。
  - 4) 謝辞は省略して下さい。
  - 5) 原稿枚数は原則として所定のオフセット用原稿用紙（1600字詰）1枚とします。しかし内容的に止むを得ない場合は2枚までを認めます。（いずれも表、図、写真を含む）原稿が2枚にわたり執筆された場合には編集委員会で査読のうえ1枚にまとめなおし願うことがありますのであらかじめご了承ください。
  - 6) 原稿は別添「講演概要原稿の書き方」をご覧のうえ、タイプ印書あるいは黒インクまたは墨を用い手書きとして下さい。
  - 7) 原稿用紙は所定の用紙を本会にて有償頒布いたしております。
- 講演申込資格**

講演者は本会会員に限ります。非会員の方で講演を希望される方は、所定の入会手続きを済ませたうえで、講演申込みをして下さい。また共同研究者で非会員の方も入会手続きをされるよう希望いたします。
- 講演申込制限**

講演申込みは1人3件以内といたします。
- 申込方法** 本誌添付の講演申込用紙に必要事項を記入の上、講演前刷原稿とともにお申し込み下さい。
- 申込用紙の記載について**
  - 1) 申込用紙は(A)、(B)とも太字欄をのぞき楷書で記入下さい。
  - 2) プログラム編成上の参考といたしますので、「講演分類欄」に講演内容が、次ページ講演分類のいずれに該当するか、番号でご記入下さい。
  - 3) 講演者には氏名の前に○印を、また研究者氏名にはローマ字読みを付して下さい。
  - 4) 講演要旨は、情報管理のための文献検索カードに利用いたしますので講演内容が明確に把握できるようおまとめ下さい。
- 申込みの受理**

下記の申し込みは理由のいかんにかかわらず、受付はいたしませんので十分ご注意ください。

  - 1) 所定の用紙以外の用紙を用いた申込
  - 2) 必要事項が記入されていない申込
  - 3) 単なる書簡または葉書による申込ならびに電報、電話による申込
  - 4) 文字が読みづらいもの、印刷効果上不適当なものと認められるもの
- 申込締切日** 昭和48年1月22日（月）17時着信まで  
申込用紙、講演前刷原稿を同時提出のこと。
- 申込先** 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館3階  
(社) 日本鉄鋼協会 編集課

## 講演分類

製 鉄						製 鋼				加 工		
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
製 鉄 基 礎	原 料 ・ 燃 料	高 炉 製 鉄	特 殊 製 鉄	フ ェ ロ ア ロ イ	製 鉄 耐 火 物	製 鋼 基 礎	溶 解 ・ 精 錬	造 塊	製 鋼 耐 火 物	塑 性 加 工	熱 処 理	表 面 処 理 ・ 防 食
加 工			性 質									
14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
鑄 造	粉 末 冶 金	溶 接	金 属 物 理	金 属 組 織	鋼 の 性 質	鉄 鋼 材 料	鑄 鉄 ・ 鑄 鋼	分 析	試 験 ・ 検 査 技 術	計 自 動 制 測 御	I E そ の 他 の 技 術	そ の 他

## 東海支部湯川記念講演会開催案内

本会東海支部では、下記により湯川記念講演会を開催いたしますので、奮つてご参加下さるようご案内申し上げます。

題 目 電気製鋼の最近の展望  
 講 師 大同製鋼(株)参与 野 田 浩氏  
 日 時 昭和 48 年 1 月 25 日 (木) 14:00～  
 場 所 名古屋市千種区不老町 名古屋大学付属図書館 視聴覚室

## 「鉄と鋼」特集号“圧延技術の進歩”原稿募集のお知らせ

「鉄と鋼」では“圧延技術の進歩”をテーマに下記により特集号を発行することになりました。内容は各種鋼材の圧延技術の進歩、矯正、剪断、熱処理制御などの周辺技術ならびに圧延理論に関するものを含みます。これらの内容に関連ある最近の研究および技術報告を募集いたします。ふるつてご投稿下さるようご案内いたします。

記

1. テ ー マ：圧延技術の進歩
2. 投稿締切日：昭和 48 年 3 月 31 日 (土)
3. 発行予定：「鉄と鋼」第 59 年第 13 号 (昭和48年11月号)
4. 原稿送付先：100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階  
(社) 日 本 鉄 鋼 協 会 編集課 (Tel. 03-279-6021)

## 昭和 48 年秋季講演大会開催日のお知らせ

昭和 48 年春秋講演大会は下記の日程で開催されますのでご案内申し上げます。

記

秋季 (第 86 回) 講演大会  
 期 日：昭和 48 年 10 月 19 日 (金), 20 日 (土), 21 日 (日)  
 場 所：九州大学

## 昭和 48 年秋季 (第 86 回) 講演大会討論会

### 討論講演募集のお知らせ

昭和 48 年秋季 (第86回) 講演大会は昭和 48 年 10 月 19 日(金), 20 日(土), 21 日(日)九州大学 (予定) において開催されますが, その討論講演を下記により募集いたしますので奮ってご応募下さるようご案内いたします。

#### 1. 討論会テーマ

##### 1) 高炉の溶融帯における反応について 座長 川合 保治君

高炉シャフト下部より羽口へかけての溶融帯における反応は高炉の特性を支配する重要な因子で, 今後研究を進めるべき重要課題と考えます。

溶融帯における炉内状況を含めて各種の反応 (溶鉄, スラッグの生成分離, スラッグの還元, 溶鉄の炭素吸収, イオウ, 珪素, マンガンなどの挙動その他) について討論し今後の発展の足がかりとしたいと考えます。

##### 2) 溶鋼の複合脱酸について 座長 盛 利貞君

鋼の量より質に重点をおかなければならぬ今日において, 溶鋼の脱酸は製鋼技術のポイントであります。しかも脱酸について現在関心を持たれるのは複合脱酸ではないでしょうか。ところが複合脱酸の効果は必ずしも明確とはいえません。平衡論, 速度論, 脱酸生成物の性状あるいは現場実績など, 基礎・応用いずれでも構いませんから複合脱酸に関する研究論文を発表し討論に参加されることを期待します。

##### 3) ロール成形の技術的諸問題について 座長 加藤 健三君

電縫鋼管, 軽量形鋼などの生産の主力となつているロール成形加工について, 成形ライン構成, 成形ロール孔型, 成形ロール荷重, 成形時の材料変形およびエッジストレッチ, 成形品の残留応力など, 成形加工上の技術的諸問題について討論を期待する。

生産加工技術的な内容と塑性加工研究的な内容のどちらでも差支えない。

##### 4) 鋼およびステンレス鋼の耐海水性 座長 久松 敬弘君

海洋開発のための構造材料としての鉄鋼には, 海水というかなり高濃度の塩化物水溶液との戦いがむずかしい問題としてある。しかも海水は単なる塩化物水溶液にとどまらず, 生物の付着によつて 'すきま' と呼ばれるジオメトリーを構造物表面につくり出す。このことによつて, 海水中での腐食はさらに局所的性質をおびる。

普通鋼・低合金耐海水鋼・高合金鋼を通じて Localized Corrosion に対する抵抗性を中心とした討論を行ないたい。

##### 5) 鉄鋼中の格子欠陥と水素原子 座長 橋口 隆吉君

鉄鋼中における各種格子欠陥と水素原子との相互作用の問題, 水素単独の場合でも水素原子を格子欠陥的立場から取扱つた問題などを討論する。

#### 2. 申込締切日 昭和 48 年 2 月 23 日 (金)

#### 3. 申込方法 本誌綴込みの申込用紙 (ブルー色) に必要事項ならびにアブストラクトをお書きのうえお申し込み下さい。

#### 4. 討論講演の採否 討論講演としての採否は, 前記ご提出のアブストラクトにより検討のうえ決めさせていただきますので, あらかじめお含みおき下さい。

#### 5. 講演前刷原稿締切日 昭和 48 年 5 月 30 日 (月)

討論講演として採用された方は, 本会所定のオフセット原稿用紙 4 枚以内 (表, 図, 写真を含め 6700 字) にタイプ (12ポ) 印書あるいは黒インクまたは墨で楷書で明りようにお書きのうえ, ご提出下さい。

#### 6. 講演テーマ・講演者の発表 「鉄と鋼」第59年第8号 (昭和48年7月号) にて発表いたします。

#### 7. 講演内容の発表 「鉄と鋼」第59年第9号 (8月号) に講演内容を掲載いたします。

#### 8. 討論質問の公募締切日 昭和 48 年 9 月中旬

前記第9号掲載の講演内容をご覧のうえ, 質問対象講演を明記のうえ, 本会編集課宛ご送付下さるようお願いいたします。

申込先: 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階  
日本鉄鋼協会編集課 Tel. 03-279-6021 (代)

## 第 85 回 (春季) 講演大会討論会のお知らせ

昭和 48 年 4 月 5 日～7 日東京工業大学において開催の国会第 85 回講演大会討論会はそれぞれ下記のごとく決定いたしましたのでお知らせいたします。

本討論会概要は「鉄と鋼」第 59 年 2 号 (次号) に掲載し、講演に対する質問を公募いたします。

### I 装入物の性状と高炉操業について

座長 鈴木 駿一

討-1 高炉操業と焼結鉱の性状

新日鉄名古屋 ○嶋田 駿作・阿部 幸弘・稲角 忠弘

討-2 ペレット性状と高炉操業

神鋼加古川 田口 正和・上仲 俊行・小泉秀雄・高見 満矩

中 研 西田礼次郎・○北村 雅司

討-3 高炉装入原料性状の研究方向

鋼管技研 安藤 遼

### II 連続鑄造の凝固について

座長 高橋 忠義

討-4 連続鑄片の品質におよぼす冷却条件

新日鉄君津 伊藤 裕雄・山古 孝之○奥村 治彦・柳沢 健

討-5 連続鑄造の Powder Casting におけるオツシレーションマークの形成と問題点

住金中技研 ○荒木 泰治・杉谷 泰夫

討-6 水モデル実験による連続鑄造鑄片内の湯流れと鑄片内部性状に関する 2, 3 の知見

神鋼中研 工博○森 隆資・長岡 豊・緑田 研三

〃加古川 杉谷 博

討-7 連続鑄造クレーター内の溶鋼の流動, 混合状態の解析

川鉄技研 工博 大井 浩・○藤井 徹也・松野 淳一

討-8 連続鑄造スラブの凝固について

鋼管技研 工博 川和 高穂

### III 熱延原板性状が冷延鋼板の形状におよぼす影響について

座長 児子 茂

討-9 熱延原板のクラウン及び形状の冷延形状に及ぼす影響の理論的研究

新日鉄技研 工博○中島 浩衛・菊間 敏夫・松本 絃美・上堀 雄司

討-10 薄物冷延鋼板の形状におよぼす熱延原板性状の影響

川鉄千葉 黒津 亮二・鈴木 桂一・中里 嘉夫・君嶋 英彦

〃技研 中川吉左衛門・○鎌田 征雄

討-11 冷延鋼板の形状に及ぼす熱延条件の影響

新日鉄名古屋 中村弥寿家

〃八幡 ○沢井 繁之

### IV 非調質高張力鋼の制御圧延—冷却により得られる性質

座長 荒木 透

討-12 再結晶によるオーステナイトの細粒化とコントロールドローリング

新日鉄基礎研 理博○関根 寛・丸山 忠克

討-13 制御圧延した非調質高張力鋼の集合組織と靱性

鋼管技研 ○小指 軍夫・稲垣 裕輔・栗原 極・三瓶 哲也・大北 智良

討-14 非調質高張力鋼のミクロ組織に及ぼす合金元素, 冷延速度の影響

川鉄技研 ○田中 智夫・榎並 禎一・田畑 綽久・波戸村太根生・船越 督己

討-15 Observation on the Versatility of Mn-Mo-Nb Controlled-Transformation Steels

Climax Molybdenum Company

○Dr. H. N. LANDER・Dr. Y. E. SMITH・Dr. J. L. MIHELICH

### V 鉄鋼中の不純物と格子欠陥

座長 橋口 隆吉

討-16 鉄中の拡散と格子欠陥

東北大工 理博 平野 賢一

討-17 体心立方遷移金属中の不純物と格子欠陥

東北大金研 工博 木村 宏

討-18 鉄鋼中の点欠陥の挙動

北大工 工博 竹山 太郎

討-19 鉄鋼中の水素と転位との相互作用について

阪大工 工博○菊田 米男・工博 落合真一郎・岩田 健司

阪大産研 工博 杉本 孝一